目白大学　人文学研究
第７号　2011年　255－263

外国語学習における“連想記憶術”の活用と事例

A Consideration and Case Study of the Association Memorizing Method of the Words in the Study of Foreign Language

宮　玲子
Reiko MIYA

Abstract

Generally, the biggest obstacle in the foreign language learning is memorizing of the words. In Japan, there is the Association Memorizing Method about foreign words as an effective technique. This technique is a method to reinforce a memory by the image of meaning and the rhythm of pronunciation of the words, and it is the method using so-called game of rhyming. I n this article, I examine the significance and the application possibility of this method and make an example of the Korean words.

Key Words：Association Method, Memorizing of Words, Foreign Language Learning, Education of Foreign Language

キーワード：連想記憶術、単語暗記、外国語学習、外国語教育

【目次】

１．問題の所在
２．外国語学習における連想記憶術の意義
３．英語の事例作成
４．英語以外の事例作成
５．結論
注
参考文献

みやれいこ：看護学部看護学科非常勤講師

1．はじめに

一般に外国語の学習過程における基礎であり、また同時に、最大の障害となるのが単語の暗記であることは言うまでもない。特に、基本的な名詞の暗記を終えた後の動詞・形容詞・副詞の修得は著しく困難な作業であり、単語帳や単語カードによっていわゆる力づくで暗記する耐久力には限界がある。

ところで、わが国の英語学習、特に大学入試のための英語学習においては、「出る単・出る熟」(『試験に出る英単語』・『試験に出る英熟語』）を学習した後[1]、それを補強するとともに、その限界を超えて英単語の知識量を向上させる位置づけの手法として、いわゆる「連単・連熟」(『英単語連想記憶術』・『単熟語連想記憶術』)を活用する学習が永きにわたって親しまれてきた[2]。

本稿では、外国語学習におけるこの「連想記憶術（Association Memorizing Method)」の意義を踏まえた上で、英語以外の外国語学習におけるこの手法の応用可能性を検討し、特に、最近のわが国で学習入口が増加しつつアジア言語の中から、朝鮮語の事例を作成する。

2．外国語学習における連想記憶術の意義

ところで、連想記憶術の効用はすでに心理学をはじめとする多くの研究によって立証されているが、その効果をより大きくするためには、具体的な語呂合わせの作文作業におけるいくつかの重要な原則が存在する。以下、先行事例として有名な英語と歴史の具体例を検討しながら、その原則を抽出してみよう。

まず、下記の事例は、小学校や中学校などの義務教育課程の歴史科目において登場するあまりにも有名な年代暗記例である。

1192年（鎌倉幕府成立）
良い国作ろう鎌倉幕府

上記の事例を検討すると、重要なポイントは以下の諸点であると言える。

① 暗記する対象である年代が文頭にある。
② その後に年代の意味が記されている。
③ 発音部と意味の間にストーリー性がある。
④ 文全体にリズム感がある。

ところで、上記の諸点がなぜ記憶力の増進を促すのであろうか。ここでは、記憶に関する認知心理学の研究成果を簡潔に紹介し、次章以下の事例作成のための理論的な基礎を提示しておきたい[3]。

まず、一般に記憶とは、生物に蓄積される情報を意味し、その最大のものは過去の経験であ

る。そして、こうした記憶には、第一に、映像や音などを感覚器官に保存する感覚記憶（１～２秒程度)、第二に、ごく短期間の間だけ情報を保存する短期記憶（20秒程度)、第三に、より長期間の間を通じて情報を保存する長期記憶の三種類がある。従って、言うまでもなくここで問題にするのは後二者たる短期記憶と長期記憶である。

もちろん、短期記憶は短期間で忘却してしまうため、これをより長期間保存しておくためにはリハーサルが必要となる。リハーサルとは、保存しておきたい情報を発声したり書いたりして反復的に繰り返し確認する作業であり、第一に、短期的な記憶を促すための維持リハーサル、第二に、短期的な記憶を長期記憶にするための精緻化リハーサル、第三に、比較的聴覚に関わるリハーサルである上記二者に対する視覚的リハーサルの三種類がある。従って、やはり言うまでもなくここで問題にするのは前二者の維持リハーサルと精緻化リハーサルである。この維持リハーサルと精緻化リハーサルの作業においては、保存したい情報に関する意味付けや、他の情報との連関性などを確認することが重要な要素となる(4)。

また、長期記憶には、言葉で表現できる陳述記憶（宣言的記憶）と、言葉で表現できない非陳述記憶（手続き記憶）があり、前者は勉強によって修得される言葉の意味に関する記憶としての意味記憶と個人的な想い出や出来事に関する情報としてのエピソード記憶によって構成され、後者はスポーツ技術などの身体で体感して覚えている記憶を意味している。

加えて、記憶の過程には、第一に、情報を憶え込む記銘（符号化)、第二に、情報を保存する保持（貯蔵)、第三に、情報を思い出す想起（検索）という三段階があり、最後の想起はさらに、以前の経験を再現する再生、以前の経験と同一の経験を確認する再認、以前の経験をその要素を組み合わせて再現する再構成の三種類がある。

従って、上記の議論を本稿の主題に当てはめて整理すると、まず、外国語の単語に関する情報を短期記憶として保存するために維持リハーサルを行い、さらにこれを長期記憶として保存するために精緻化リハーサルを行う作業を通じ、それを意味記憶として定着させるために連想記憶術が有効か否かを論ずるとともに、そもそも連想記憶術が記憶したい情報を記銘し、保持し、想起する作業を促進する効果を有する手法であるか否かを論ずることとなる。

そこで、本章の冒頭で連想記憶術の事例から導出した４つのポイントについてこれらの諸点を考察すると、第一に、①と②については暗記対象である情報の意味付けと他の情報との関連性が明確に示される効果が期待できるとともに、第二に、③については意味記憶の定着がエピソード記憶の要素によってサポートされる効果を期待できる。また、第三に、④についてはリハーサルという反復作業に欠かすことのできない音声上のリズム感が与えられることが期待できる。従って、連想記憶術は、維持リハーサルと精緻化リハーサルの双方の効果を増進させる可能性を有する学習手法であると考えられるのである。さらに、記憶の過程という視点から考察しても、連想記憶術の語呂合わせが有するこうした①～④の特徴は、当該情報をシステム化することを通じて、人間の記憶に取り込み易くしたり保持し易くする効果＝符号化や貯蔵力の促進ならびに情報を思い出し易くする効果＝検索力の増進を期待できる手法であると考えられ

るのである。

３．英語の事例作成

それでは、この原則に倣って筆者が作成した例を挙げてみよう。

1582年（本能寺の変）
以後野に下る光秀の本能寺

1956年（日本の国連加盟）
良いくに（国）ゴロゴロ日本も国連加盟

また、世界史の年代暗記で、やはり筆者が作成した事例を挙げる。

313年（ミラノ勅令）
みな（皆）意味不明のミラノ勅令

次に、以下は英単語の学習において、大学受験レベルの課程で登場する有名な暗記事例である。

abandon
アバンダン（捨てる）
あ（ぁ）晩だと勉強捨てる。

ここでは、上記の①～③の原則のうち、④についてはややあやしいものの、①～③の原則についてはきちんと踏襲されている。それでは、やはり上記の原則に倣って筆者が作成した例を挙げる。

magistrate
マジストレート（判事）
マジでストレートな判事さん。

jaw
ジョウ（あご）
冗談言うとあご蹴るぞ。

detect
ディテクト（発見する）
出てくと新たに発見する。

athlete's foot
アスリートズフット（水虫）
アスリートの足（フット）は水虫だらけ。

以上のような検討から考えるに、連想記憶術は、上記の原則が可能な限り守られている文章を作成し得る限りにおいて、それを英語や歴史以外の学習分野に応用することが可能であると考えられる。それでは以下、近年のわが国において急速に学習人口を増加させているアジア言語の中で、特に朝鮮語を取り上げて、その単語暗記学習に効果的な連想記憶文を作成してみよう(5)。

４．英語以外の事例作成

① 건방지다
コンバンチダ（生意気だ）
今晩血出すぞ生意気だ。

〈解説〉
原則①～④が踏襲されている。ここでは、生意気な後輩に向かって先輩が脅しているイメージ。

② 내내
ネネ（ずっと）
ね（ぇ）ね（ぇ）ずっと元気でいましょうね。

〈解説〉
原則④はあやしいが、①～③は踏襲されている。

③ 내지
ネジ（ないし、あるいは）
ネジないしは釘をくれ。

〈解説〉
原則①～④が踏襲されている。

④　마무리
マムリ（仕上げ、締めくくり）
ま（あ）ムリだと締めくくり。

〈解説〉
原則①～④が踏襲されている。

⑤　도로
トロ（もとに戻す、引き返す）
トロ（ッコ）を元に戻して引き返す。

〈解説〉
原則①～④が踏襲されている。

⑥　굳따
クッタ（固い）
喰ったご飯が固い。

〈解説〉
原則④はあやしいが、①～③は踏襲されている。

⑦　어리석다
オリソックタ（愚かだ）
俺そっく（り）だ愚かだなぁ。

〈解説〉
原則④はあやしいが、①～③は踏襲されている。ここでは、父親が成績の悪い息子を嘆いてつぶやいているイメージ。

⑧　끊임없이
クニモプシ（絶え間なく）
国もプ（ッ）シ（ュ）する絶え間なく。

〈解説〉

原則④はあやしいが、①～③は踏襲されている。ここでは、立派なことをしている人物を国家が後押ししているイメージ。

⑨　어색하다

オーセクカダ（ぎこちない）

おぉセクハラ課（長）だ弁解がぎこちない。

〈解説〉

原則④はあやしいが、①～③は踏襲されている。

⑩　미지근하다

ミジクナダ（生ぬるい）

未熟だな（なだ）君は生ぬるい。

〈解説〉

原則①～④が踏襲されている。

⑪　매달리다

メダルリダ（ぶら下がる）

メダル（が）リ（ー）ダ（ー）にぶら下がる。

〈解説〉

原則④はあやしいが、①～③は踏襲されている。

⑫　밀접하다

ミルチョッパダ（密接だ）

見るチョッ（プ）パ（ー）だ密接だ。

〈解説〉

原則③が苦しいが、①～②および④は踏襲されている。ここでは、ジャンケンのパーの形をした手で空手チョップのように机を叩き、そのまま机の表面に手が置かれてくっついているイメージ。

⑬　번거롭다

ポンゴロプタ（わずらわしい）

ポン、ゴロ、プタでわずらわしい。

〈解説〉

原則③が苦しいが、①～②および④は踏襲されている。勉強している自分のとなりに狸がいて、ハラを叩いたり（ポン）、寝転んだり（ゴロ）、飛び跳ねて着地したり（プタ）してわずらわしいイメージ。

５．結論

本稿では、わが国において英単語や歴史年代の暗記学習者の手法として発達した連想記憶術を検討し、各事例を基にその作成のための原則を抽出した後、英語以外の外国語学習への応用可能性を検討するために、朝鮮語を題材とした例文作成を試みた。

そこでは、①暗記の対象となる単語の発音が文頭に来る、②暗記の対象となる単語の意味がそれに続く、③発音部と意味の間に文章としてのストーリー性がある。④文章全体にリズム感があるという４つの原則が指摘され、また、それらの原則を可能な限り踏襲することで、この手法が充分に他の外国語学習にも応用可能であることが確認された。今後も、他の外国語の応用事例を蓄積することが望まれる。

【注】

（１）「出る単・出る熟」の定番文献が森一郎教授の一連の著作であることは、あまりにも有名である。森（1997①）、森（1997②）。また、類書として鈴木（2000）などがある。

（２）「連単・連熟」の定番文献は、武藤たけ雄教授の手による著作である。武藤（1998①）、武藤（1998②）、武藤（1998③）、武藤（2001）、武藤・海野（1992）。また、類書として西村（2000）などがある。

（３）　連想記憶術の有効性に関する認知心理学的な研究の概観としては、道又・他（2003）を参照せよ（特に、第５章「記憶」など）。原典としては、コホネン（1993）が有名である（特に、第１章「記憶の諸側面」、第３章「古典的な学習システム」、第６章「最適連想写像」、第８章「パタン認識」など）。また、本稿の第２章で提示した連想記憶術の事例から導出される特徴の①および②については、いわゆるプライミング効果（先行語が後続する事柄に影響を与える効果）の要素もあると考えられるが、ここではリハーサル作業のみに焦点を当てて議論を紹介した。

（４）　コホネン（邦訳）（1993）15～22頁などの指摘による。

（５）　本稿と同種の意義に基づいて韓国語学習における連想記憶術の応用に取り組んだ業績として、韓誠『韓国語単語が笑いながら身につく本』（素人社、1994年）、前田真彦『前田式韓国語単語整理術』（アルク、2009年）などがある。

【参考文献】

韓誠『韓国語が笑いながら身につく本』（素人社、1994年）
コホネン、T.（中谷和夫訳）『自己組織化と連想記憶術』（シュプリンガー・クェアラーク東京、1993年）
鈴木邦弥『ラクラク英単語記憶術』（文芸社、2000年）
西村久喜『英単語・連想記憶術』（PHP研究所、2000年）
前田真彦『前田式韓国語単語整理術』（アルク、2009年）
道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢学『認知心理学（有斐閣アルマ）』（有斐閣、2003年）
武藤たけ雄『英単語連想記憶術（第１集）』（青春出版社、1998年・初版1974年）
――『英単語連想記憶術（第２集）』（青春出版社、1998年・初版1974年）
――『英単語連想記憶術（第３集）』（青春出版社、1998年・初版1974年）
――『基本英単語連想記憶術』（青春出版社、2001年）
――・海野育男『英単語連想記憶術仕上げトレーニング』（青春出版社、1992年）
森一郎『試験に出る英単語』（青春出版社、1997年）
――『試験に出る英熟語』（青春出版社、1997年）